えんとこの歌

寝たきり歌人・遠藤 滋

ベッドの上で歌が生まれる。
遠藤滋と介助の若者たちとの触れ合い・・・
25年に及ぶ相聞歌、『えんとこの歌』に
耳を澄ませてほしい。

自らを他人と比ぶることなかれ
同じいのちは他に一つなし

自分の足で歩こうという
思いを諦めない遠藤のように
私は生きようとしているだろうか

1999年に完成させた映画『えんとこ』は、脳性マヒで寝たきり生活を強いられながら介助者たちの力を借りて生きる学生時代の友人、遠藤滋の日々を3年間にわたって追ったドキュメンタリーだった。

《恐ろしき事件ならずや十九人
元職員に刺殺さるとは》

2016年、夏。神奈川県相模原市で起きた、障がい者大量殺傷事件を知ったとき、すぐに思い出したのは遠藤のことだった。無性に遠藤に逢いたくなり、「えんとこ」を再び訪れた。20年近くの時間を経て、遠藤の障がいは進行し、喋ることも、食べることも、困難になっていた。

しかし一方で、50代後半から遠藤は短歌を詠むようになり、心の叫びを言葉に託す日々を送っていた。

《足熱し身体も熱し痛し苦し
かく叫びいて今日も明けゆく》

ベッドに横たわりながら、進行する障がいの苦しみが歌われ、同時に70歳を越えて生き生きと人生を謳歌する悦びも歌われてきた。

《手も足も動かぬ身にていまさらに
何をせむとや恋の告白》

遠藤の寝たきりの日々は35年。「えんとこ」にカメラが入り、ベッドサイドでただただ遠藤と介助者たちとの日々を記録しつづけて25年あまりの歳月が流れた。その介助の日々は、心の交流のドキュメントでもあった。

ありのままのいのちを生かし合いながら生きる・・・ということ。

（かんとく・伊勢真一）

出 演 ――― 遠藤滋 「結・えんとこ」介助者のみなさん
短歌朗読 ――― 友部 正人
撮 影 ――― 石倉 隆二　宮田 八郎　安井 洋一郎
録 音 ――― 永峯 康弘　井上 久美子
音響構成 ――― 米山 靖
編 集 ――― 尾尻 弘一
テーマ曲 ――― 『不屈の民』 編曲 横内 丙午
演 奏 ――― 谷ぐち 順　菅原 雄大　藤原 亮
宣伝デザイン ――― 森岡 寛貴（ジオングラフィック） 遠藤 郁美
上映デスク ――― 鷲見 真弓　今井 亜矢子
協 力 ――― 伊勢 朋矢　矢吹寿秀　福島広明
あけび短歌会　大津留 直
制作協力 ――― クロスフィット ハチプロダクション 一隅社
上映協力 ――― エーザイ株式会社
企画製作 ――― いせフィルム
演 出 ――― 伊勢 真一

遠藤 滋（えんどう しげる）

1947年静岡生まれ。1歳の頃脳性マヒと診断される。障がいを引き受けながら、自ら「えんとこ」を組織し介助者たちの力を借りて自立生活を続けている。東京・世田谷のアパートの一室、「えんとこ」のベッドの上から、社会や自分自身を凝視するその眼差しで、50代から短歌を詠み始める。「えんとこ」は遠藤滋のいるところであり、縁のあるところ。いのちを生かし合う居場所である。著書「だから人間なんだ」他。

伊勢 真一（いせ しんいち）

ドキュメンタリー映像作家。1949年東京生まれ。遠藤滋とは学生時代の友人である。
『奈緒ちゃん』（1995年）、『えんとこ』（1999年）、『風のかたち』（2009年）、『大丈夫。』（2011年）、『妻の病』（2014年）、『ゆめのほとり』（2015年）、『いのちのかたち』（2016年）、『やさしくなあに』（2017年）他のヒューマンドキュメンタリーを製作。本作は映画『えんとこ』から20年を経た続編である。

【お問合せ】いせフィルム www.isefilm.com
〒150-0002 渋谷区渋谷1-9-4 トーカン渋谷キャステール406（2018年4月より住所が変更になりました）
TEL：03-3406-9455　FAX：03-3406-9460　E-mail：ise-film@rio.odn.ne.jp